

「百舌鳥・古市古墳群 仁徳陵古墳をはじめとする巨大古墳群」

提案書の概要

(1) 提案のコンセプト

<古墳時代と古墳文化>

日本列島の3世紀後半～7世紀に、前方後円墳などの独創的な古墳が造られた古墳文化は、東北南部から九州南部にかけて広がり、古墳は20万基以上造られた

<古墳の大きさと百舌鳥・古市古墳群>

百舌鳥・古市古墳群は、大きさや種類の違う古墳が集まった日本の古墳の代表例 仁徳陵古墳や応神陵古墳など世界最大級の墳墓が含まれる 5世紀前後の倭国王を中心とした支配者層の墳墓と考えられる

<東アジアでの位置付け>

5世紀代に中国南朝に使いを送った「倭の五王」の墳墓が含まれる可能性が高い

<資産の価値>

百舌鳥・古市古墳群は、日本列島における国家形成過程を示すモニュメントであると同時に、古墳文化という他に類をみない文化がかつて存在したことを物語る遺産として普遍的な価値をもつ

(2) 資産に含まれる文化財

大阪府堺市所在の百舌鳥古墳群と羽曳野市から藤井寺市にまたがる古市古墳群 総数87基の古墳(前方後円墳42基、方墳22基、円墳23基)

(3) 保存管理計画

百舌鳥・古市古墳群を一体的に保存・継承するための保存管理計画を策定する古墳ごとの調査を進め、立地や資産の種類に応じて保存管理の方法を検討するバッファゾーンについては、古墳の立地等の検討を行い、地形分類を基本として必要な範囲と保護手法を検討する 陵墓については、宮内庁による保存管理を尊重し、史跡指定等の手続きを経ることなく、保存管理計画を策定することとする

(4) 世界遺産の登録基準への該当性

資産の適用種別・該当する登録基準

適用種別は「文化遺産」、登録基準は()、()、()

- () 百舌鳥・古市古墳群の巨大古墳は、日本列島各地の古墳のモデルとなったもの馬具やガラス器などの出土品もアジアレベルの相互交流を示す
- () 古墳文化という独特な文化が、かつて日本列島に存在したことを示す顕著な物証
- () 百舌鳥・古市古墳群は膨大な労働力による大規模なモニュメント 前方後円墳などの独特な墳墓とその築造技術は、日本列島で独自の発展をみた

*世界遺産の登録基準(世界遺産条約履行のための作業指針より抜粋)

- (ii) 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。
- (iii) 現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在(少なくとも希有な存在)である。
- (iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。

真実性・完全性の証明

考古学的研究や文献資料の考証から、本資産は4世紀後半から6世紀前半に築造されたもので、各古墳の墳丘もほぼ原形を保つことが明らかとなっている

類似資産との比較

世界の類似資産と比較して前方後円墳は著しく複雑で独創的な構築物 さまざまな墳形の古墳がともに築造されている点も他に類をみない 仁徳陵古墳や応神陵古墳は、世界最大級の平面積をもつ墳墓であるが、中央集権的国家の絶対的な君主が築造する王陵とは異なり、多くの首長が古墳の大きさを競い合った点に大きな特徴がある

百舌鳥・古市古墳群の概要

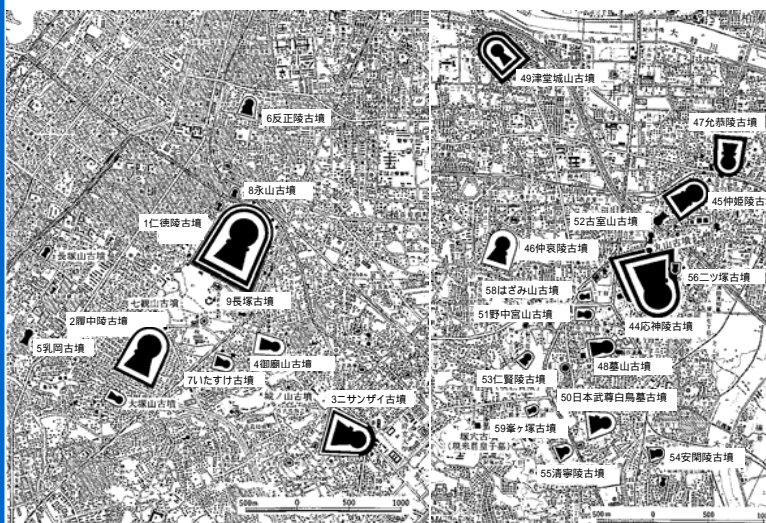


古墳時代の百舌鳥古墳群(復元図)

石原正 画

百舌鳥古墳群

- ・大阪府堺市所在
- ・東西4km、南北4kmの範囲に広がる
- ・前方後円墳23基、方墳5基、円墳19基など総数47基が残る
- ・仁徳陵古墳(墳長486m)、履中陵古墳(360m)、ニサンザイ古墳(290m)などの巨大古墳
- ・4世紀後半から5世紀後半にかけて古墳が造られた
- ・七観山古墳で、短甲7領、冑7領、刀剣類170本以上が出土
- ・大塚山古墳で短甲6領、冑4領、刀剣類200本以上が出土



百舌鳥古墳群分布図

古市古墳群分布図

巨大古墳群

- ・多くの古墳が集中する4世紀後半から6世紀前半にかけて日本列島で最大の古墳群
- ・大きさの違う前方後円墳、方墳、円墳が組み合わさっている

日本最大の古墳

- ・仁徳陵古墳は墳長486m、周囲の濠を合わせると840mを測り、日本最大一つの墳丘としては、世界最大
- ・応神陵古墳は墳長425mを測り、日本で第2位の大きさ

顕著な副葬品

- ・膨大な量の鉄製武器・武具・農工具
- ・中国製の金銅製馬具や中東製のガラス器などアジアレベルの交流の存在を示す

「倭の五王」との関わり

- ・「倭の五王」= 5世紀に中国南朝へ使いを送った五代にわたる倭国王
- ・5世紀代の倭国王墓は、百舌鳥・古市古墳群に集中



仁徳陵古墳(百舌鳥古墳群)



古市古墳群

- ・大阪府羽曳野市～藤井寺市にかけて所在
- ・東西4km、南北4kmの範囲に広がる
- ・前方後円墳20基、方墳17基、円墳7基の総数44基が残る
- ・応神陵古墳(墳長425m)、仲姫陵古墳(290m)、仲哀陵古墳(242m)などの巨大古墳
- ・4世紀後半から6世紀前半にかけて古墳が造られた
- ・野中古墳で短甲11領、冑11領、刀剣類約170本、鏃約700本などが出土
- ・アリ山古墳で刀剣類133本、鏃約1500本以上が出土
- ・西墓山古墳で鍬、鎌、斧などの農工具類が2000点以上出土



応神陵古墳(古市古墳群)



空から見た古市古墳群

日本の巨大古墳ランキング

仁徳陵古墳	486m	大阪府堺市
応神陵古墳	425m	大阪府羽曳野市
履中陵古墳	360m	大阪府堺市
造山古墳	350m	岡山県岡山市
河内大塚古墳	335m	大阪府羽曳野市・松原市
見瀬丸山古墳	318m	奈良県橿原市
景行陵古墳	302m	奈良県天理市
ニサンザイ古墳	290m	大阪府堺市
仲姫陵古墳	290m	大阪府藤井寺市
作山古墳	286m	岡山県総社市

(は今回の提案に含まれる古墳)

【世界文化遺産について】

(1) 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約の目的

文化遺産及び自然遺産を人類全体のための遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存することが重要であるとの観点から、国際的な協力及び援助の体制を確立すること。

(2) 経緯

昭和47年(1972) 第17回ユネスコ総会において採択

昭和50年(1975) 条約発効

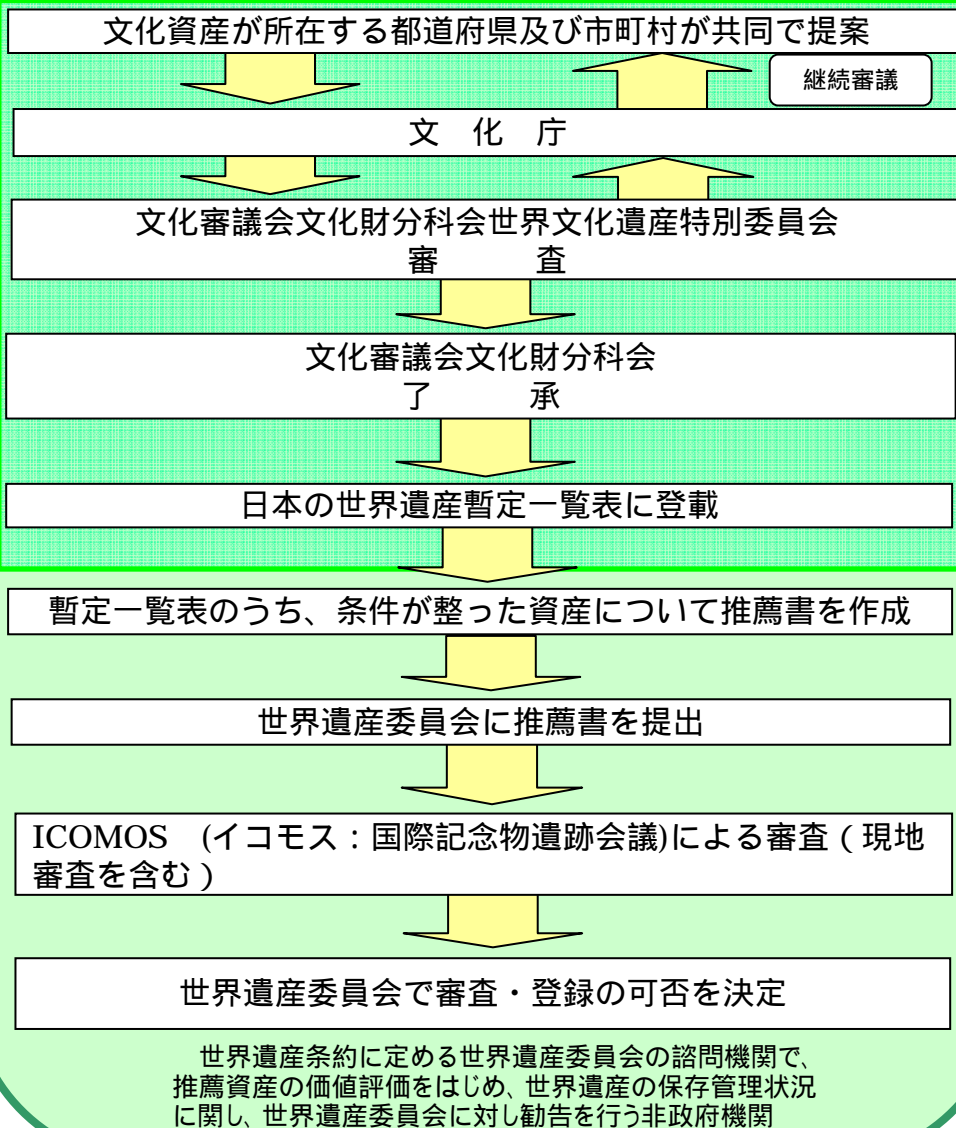
平成 4年(1992) 我が国において条約締結のための国会承認及び条約発効

平成19年(2007) 8月現在、締結国数182カ国・世界遺産851件

(文化遺産660件、自然遺産166件、複合遺産25件)

日本国内で11件(他に自然遺産は3件)

【提案から登録までの流れ】



【参考事例】



【日本の世界遺産一覧】

記載物件名	所在地	暫定記載	世界遺産登録年	区分
法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	H4年	H5年12月	文化
姫路城	兵庫県	H4年	H5年12月	文化
屋久島	鹿児島県	H4年	H5年12月	自然
白神山地	青森県・秋田県	H4年	H5年12月	自然
古都京都の文化財	京都府・滋賀県	H5年	H6年12月	文化
白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県・富山県	H6年	H7年12月	文化
原爆ドーム	広島県	H7年	H8年12月	文化
厳島神社	広島県	H7年	H8年12月	文化
古都奈良の文化財	奈良県	H9年	H10年12月	文化
日光の社寺	栃木県	H10年	H11年12月	文化
琉球王国のグスク及び関連遺産群	沖縄県	H11年	H12年12月	文化
紀伊山地の霊場と参詣道	三重県・奈良県・和歌山県	H15年	H16年7月	文化
知床	北海道	H16年	H17年7月	自然
石見銀山遺跡とその文化的景観	島根県	H13年	H19年7月	文化

【日本の暫定リスト記載遺産一覧】

記載物件名	所在地	暫定リスト記載年	区分
古都鎌倉の寺院・神社ほか	神奈川県	H4年	文化
彦根城	滋賀県	H4年	文化
平泉の文化遺産	岩手県	H13年	文化
富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県	H19年	文化
富士山	静岡県・山梨県	H19年	文化
飛鳥・藤原 古代日本の宮都と資産群	奈良県	H19年	文化
長崎県の教会群とキリスト教関連遺産	長崎県	H19年	文化
小笠原諸島	東京都	H19年	自然